

2024.3.12

2023年度

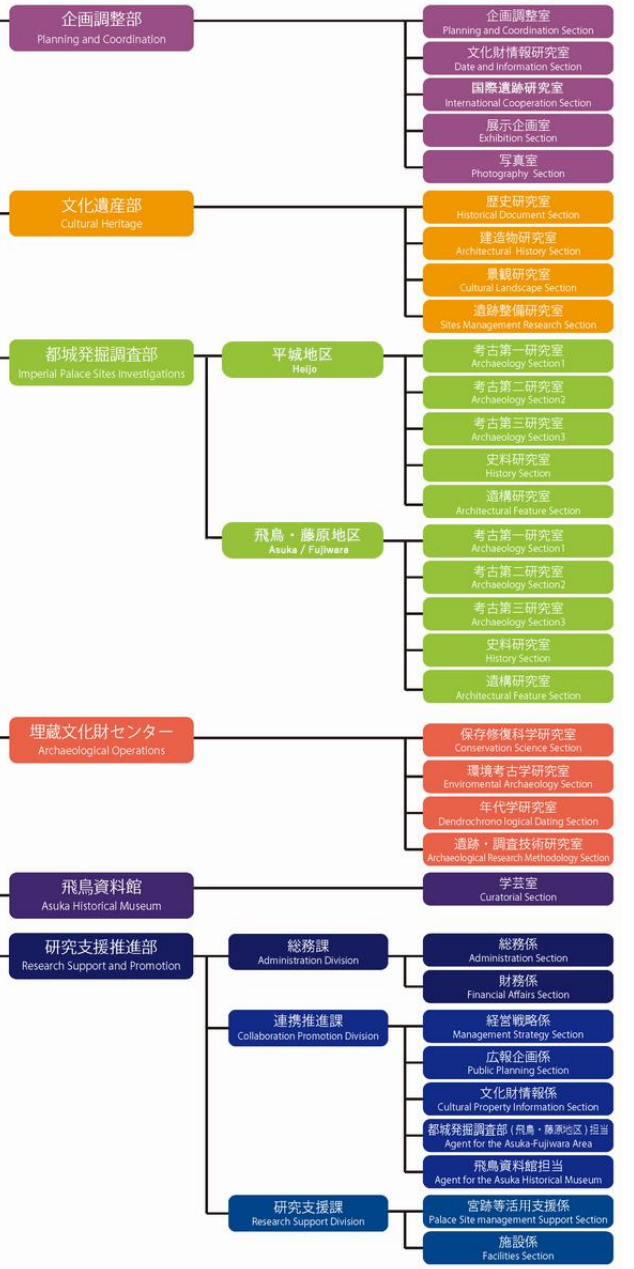
人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業
人文学データシンポジウム

奈良文化財研究所からの声



独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所
都城発掘調査部 平城地区史料研究室長
馬場基

奈良文化財研究所
Nara National Research Institute for Cultural Properties



本日のお題

データを提供する側の論理
データを提供する側の都合

1 行政との関係

文化財保護行政とのリンクが不可欠

文化財の調査報告書は
行政の報告書であり、学術的な報告書でもある

第一章 総則

(この法律の目的)

第一条 この法律は、文化財を保存し、且つ、その活用を図り、もつて国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献することを目的とする。

(文化財の定義)

第二条 この法律で「文化財」とは、次に掲げるものをいう。
・ ・ ・ ・ 中略 ・ ・ ・ ・

(政府及び地方公共団体の任務)

第三条 政府及び地方公共団体は、文化財がわが国の歴史、文化等の正しい理解のため欠くことのできないものであり、且つ、将来の文化の向上発展の基礎をなすものであることを認識し、その保存が適切に行われるように、周到の注意をもつてこの法律の趣旨の徹底に努めなければならない。

(国民、所有者等の心構)

第四条 一般国民は、政府及び地方公共団体がこの法律の目的を達成するために行う措置に誠実に協力しなければならない。

2 文化財の所有者その他の関係者は、文化財が貴重な**国民的財産**であることを自覚し、これを公共のために**大切に保存**するとともに、できるだけこれを**公開**する等その**文化的活用**に努めなければならない。

3 政府及び地方公共団体は、この法律の執行に当つて関係者の**所有権**その他の**財産権**を尊重しなければならない。

2017年度（平成29年度）発掘届出等の概要

	種別		調査の目的・契機				合計	前年比
	試掘確認調査	本発掘調査	発掘調査	自然崩壊	学術調査等	遺跡整備		
北海道	2	62	26	0	38	0	64	2
青森	117	31	141	0	7	0	148	2
岩手	0	55	47	1	7	0	55	-32
宮城	393	60	450	0	3	0	453	-56
秋田	62	6	63	0	5	0	68	-42
山形	3	14	9	0	8	0	17	-5
福島	0	26	13	0	13	0	26	9
茨城	2	70	70	0	2	0	72	32
栃木	154	16	155	0	9	6	170	37
群馬	494	136	624	0	6	0	630	-42
埼玉	0	234	222	0	9	3	234	-7
千葉	285	158	431	0	11	1	443	40
東京	791	218	988	0	17	4	1,009	133
神奈川	776	159	926	0	8	1	935	-46
新潟	217	31	240	0	7	1	248	-6
富山	2	6	6	0	2	0	8	-5
石川	0	15	15	0	0	0	15	-31
福井	29	11	29	0	9	2	40	-4
山梨	130	8	137	1	0	0	138	99
長野	326	53	365	0	14	0	379	61
岐阜	0	19	13	0	1	5	19	-12
静岡	133	34	156	0	7	4	167	-166
愛知	199	53	231	0	8	13	252	8
三重	12	23	33	0	2	0	35	-15
滋賀	488	28	514	0	1	1	516	15
京都	176	127	291	0	12	0	303	63
大阪	691	304	964	0	9	22	995	128
兵庫	2	77	74	0	3	2	79	31
奈良	0	196	181	0	13	2	196	106
和歌山	45	23	58	0	10	0	68	4
鳥取	22	9	29	0	2	0	31	5
島根	24	37	54	0	7	0	61	-4
岡山	59	18	71	0	5	1	77	0
広島	6	21	21	2	4	0	27	17
山口	4	16	19	0	1	0	20	-7
徳島	10	14	17	0	6	1	24	-6
香川	74	0	54	0	16	4	74	-22
愛媛	0	46	38	0	6	2	46	10
高知	0	13	10	0	3	0	13	1
福岡	0	167	144	1	17	5	167	-7
佐賀	4	32	32	0	1	3	36	5
長崎	27	23	36	0	14	0	50	-22
熊本	1	42	31	1	4	7	43	8
大分	51	16	60	0	7	0	67	11
宮崎	243	32	266	0	2	7	275	31
鹿児島	81	19	82	0	13	5	100	-55
沖縄	7	25	28	0	3	1	32	-21
合計	6,142	2,783	8,464	6	352	103	8,925	245
比率	68.8%	31.2%	94.8%	0.1%	3.9%	1.2%		

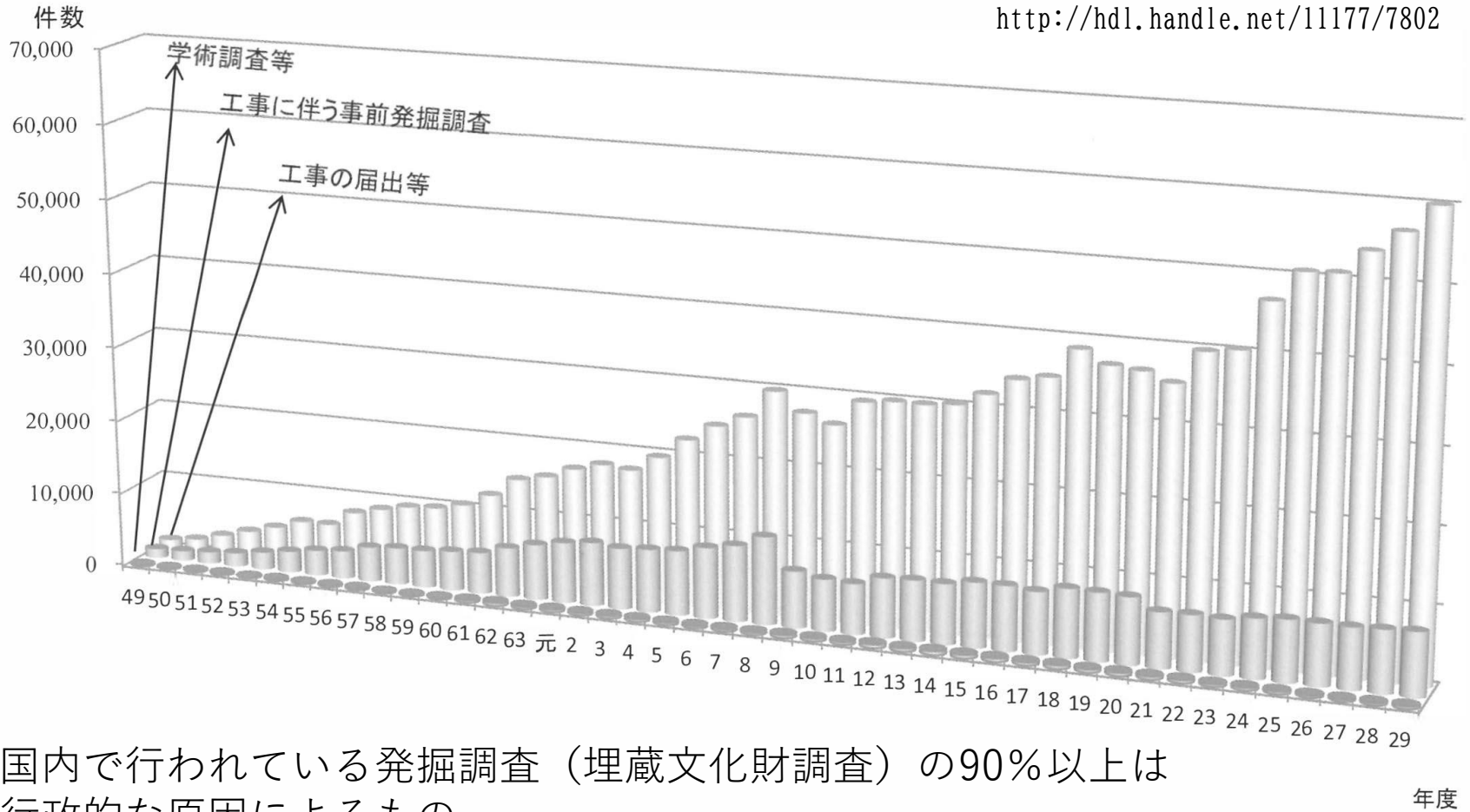
奈良文化財研究所埋蔵文化財センター編
『埋蔵文化財ニュース』No. 177 より

<http://hdl.handle.net/11177/7802>

年度別発掘届等件数の推移

奈良文化財研究所埋蔵文化財センター編
『埋蔵文化財ニュース』No.177 より

<http://hdl.handle.net/11177/7802>



国内で行われている発掘調査（埋蔵文化財調査）の90%以上は
行政的な原因によるもの

→ 発掘調査報告書は、その行政行為にともなう報告書

研究資源化・デジタル化は必須ではない

2 展観との関係

機構内の中核事業は展観

文化財に携わる場合の優先順位はたいてい
保護・保存 > 展観（市民向け活用） > 研究（研究者向け活用）

Mission / 01

博物館を設置して有形文化財を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、文化財に関する調査及び研究等を行うことにより、貴重な国民的財産である文化財の保存及び活用を図ります。特に、我が国の文化財は脆弱なものが多いことを踏まえ、適切な保存に留意しつつ、多くの人々が文化財にふれ、我が国の歴史や文化等を深く学ぶことができるよう、文化財の積極的な活用と多様な鑑賞機会の確保等を行うことで観光振興、地方創生に寄与するだけでなく、文化財の活用を通じて、貴重な文化財の次世代への保存継承に関する国民の意識の涵養を図ります。

Mission / 02

文化財に関する専門的、技術的事項に関する唯一の国立研究機関として、文化財に係る新たな知見の開拓につながる基礎的・探究的な調査研究を継続的に行うとともに、科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基礎的な研究を行い、その成果をもって官公庁、博物館等の専門機関、文化財の所有者・管理者・修理技術者等が行う業務の質的向上に寄与します。また、地震、台風、豪雨等の災害に対する多様な文化財の防災・救援のための連携・協力体制を構築し、専門的な知見から必要な支援を行うとともに、地域の専門的人材の育成を図ります。

Mission / 03

有形・無形の文化遺産に係る国際協働・協力を貢献する専門的機関として、国際条約等に基づく活動を積極的に推進します。

Mission / 04

文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律の要請を踏まえ、文化資源保存活用施設の設置者の求めに応じて、情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他国内外からの観光旅客が文化についての理解を深めることに資する措置の実施に必要な助言その他の援助等を行います。

ColBase

国立文化財機構所蔵品統合検索システム

フリーワード

詳細検索



周茂叔愛蓮図

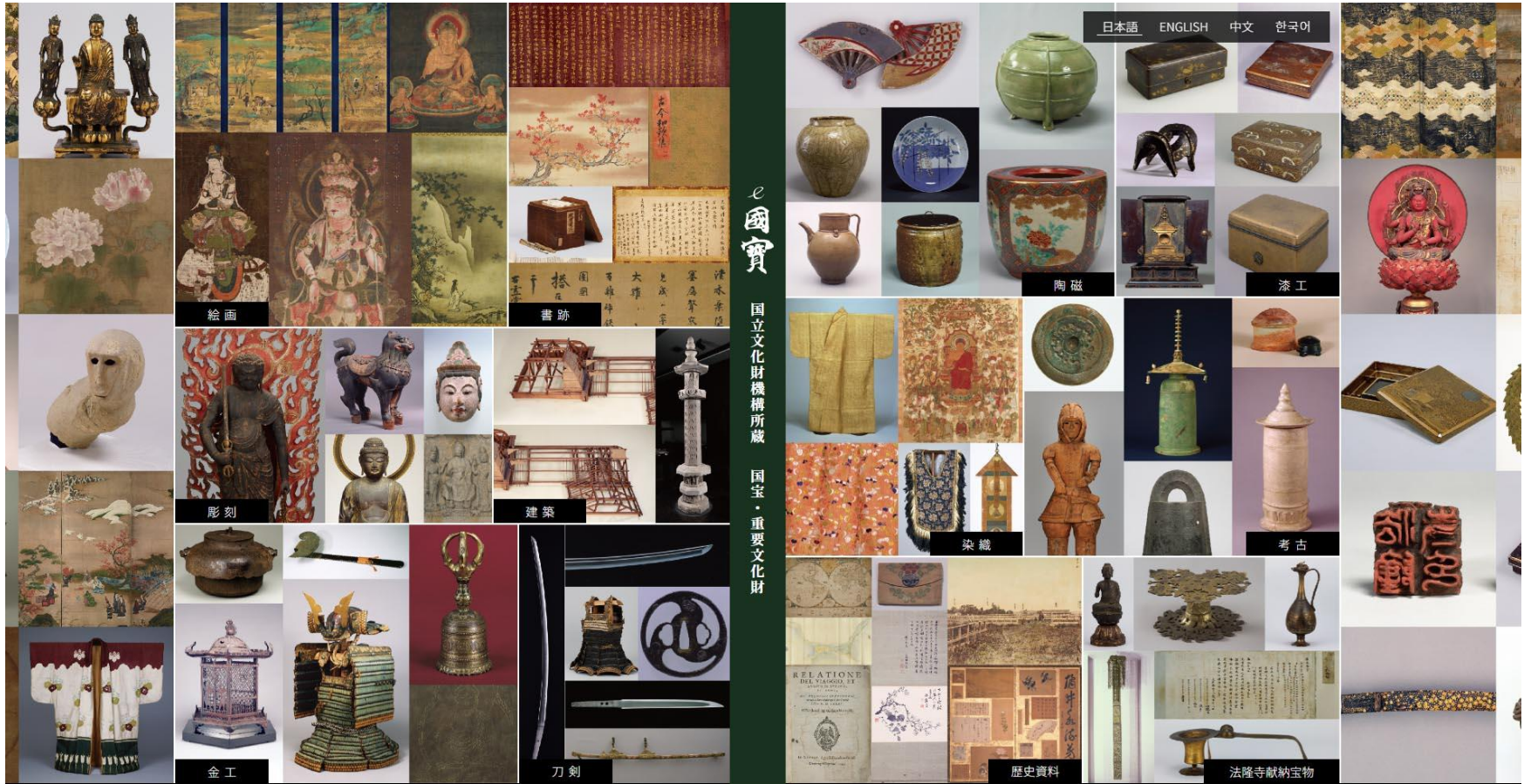
お知らせ

2023年10月2日

皇居三の丸尚蔵館の収蔵品を公開しました。

お知らせ一覧 >





画像公開・一般向け解説・・・○
 フルテキストの釈文・・・△・×

<https://emuseum.nich.go.jp/>

「研究」のためのデジタル化は必須ではない

3 文化財調査・管理者として

史資料調査の最前線にいる

史資料を「私物化」せず社会・学会で共有する必要
共有手段の中核としての報告書・史資料集+データベース
ただし文化財担当者にとっては
保護・保存 > 公開・公表 = 研究

- ・紙への信頼感
永続性・確実性
慣習・これまでの「ノウハウ」
印刷物こそ価値があるというルール



- ・研究環境の変化
データ駆動型研究の提唱
深層学習も視野に入れた
研究資源化の潮流
(資料集のデジタル化)
- ・印刷技術の情勢の変化
コロタイプ印刷の事実上の消滅
- ・デジタルデータの環境変化
インターネットの技術向上
永続的管理に向けた潮流

史資料の提供においても
デジタル化は必須ではない

- ・書写
- ・木版時代
テキストのみ・群書類従の時代
- ・活版・石版時代
テキスト・一部写真・明治時代
「組み方」が編み出される
- ・デジタル時代
画像情報

技術的状况などから
やむを得ず「検討」されている

紙での情報の保管：和紙 = 1300年の実績
∴木簡の図録は和紙に印刷
洋紙で失敗 = 酸性紙問題

デジタルでの保存の実績・経験なし
= コストがわからない
方法も提示できない

→ 年度単位型予算になじまない
新しい方法を導入する「コスト」がかかる
∴行政型・先例主義型の職域にはなじまない
(通常書類の保管期間とは長さが異なる)

4 デジタル化へのモチベーション

技術的状況から「やむを得ないデジタル化」

「みんな紙が好き」な人たち
慣例を頑張って守ると評価される心性・空気感
デジタル化促進派は「つらい」

Cf:各地の文化財担当者は、研究者番号を持っていない人が多い

5 「拠点」としての役割を

さまざまな側面をいかに「つなぐ」か

我々が調査する「史資料」は可能性に満ちた「ナマモノ」
我々が扱うデータは行政資料にして研究資料
攻めのデジタル化でこれらの側面を「つなげる」
拠点としてのサポート・連携



木簡

日本史研究でのみ
渴望されるものではない



→ 国語・国文
漢字学
東アジア学

※ナマの資料体は
無限の可能性を持つ

⇒可能性を引き出せる
連携と情報提供が必要

史的文字データベース連携検索システム

日本語 ▾



史的文字DBとは

使い方

検索文字

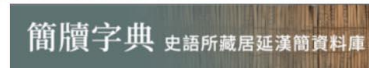
検索する

・調べたい文字を入力してください。(単文字のみで指定可能です)

関連機関/関連データベース・データセット



漢字規範史データセット保存会



Copyright(c) 奈良文化財研究所 All Rights Reserved.

<https://mojiportal.nabunken.go.jp/>

研究の中核としての連携構築

全文データを
検索可能!

WEBで発掘調査報告書を読める

全国遺跡報告総覧

Comprehensive Database of Archaeological Site Reports in Japan



キーワードから探す

検索

- ▶ 詳細検索
- ▶ 遺跡(抄録)検索
- ▶ 全国文化財イベントナビ
▶ 詳細検索
- ▶ 文化財動画検索
- ▶ 文化財論文検索
- ▶ 全国文化財目録
- ▶ 文化財データリポジトリ

一覧から探す

- ▶ 新着一覧
- ▶ 発行機関一覧
(都道府県別)
- ▶ 報告書種別一覧
- ▶ みんなの注目コンテンツ

その他

English | 日本語

→ トップページへ戻る

遺跡報告総覧通信

- 12/7 全国文化財目録の公開
- 8/29 報告書種別を細分化しました
- 10/18 全国文化財情報デジタルツインプラットフォームの構築
- 1/31 書誌の巻次およびシリーズ番号にて一括書換
- 1/30 NCIDとJP番号の一括登録

このサイトについて

【全国遺跡報告総覧とは】

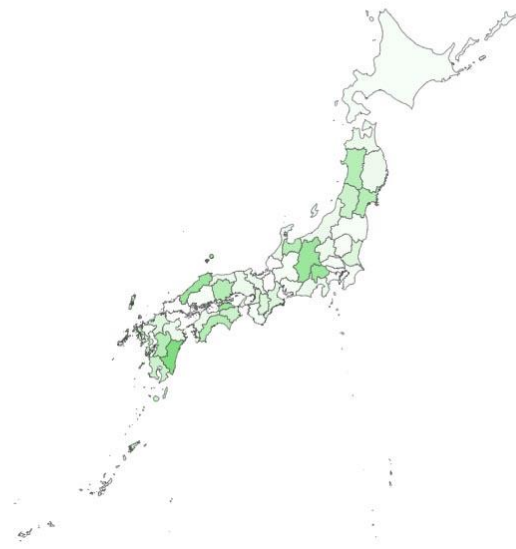
「全国遺跡報告総覧」は、埋蔵文化財の発掘調査報告書を全文電子化して、インターネット上で検索・閲覧できるようにした「報告書のインデックス」です。「総覧」は、全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクトによって構築された遺跡資料リポジトリ・システムとコンテンツを国立文化財機構 奈良文化財研究所が引き継ぎ、運用しているものです。

貴重な学術資料でありながら、流通範囲が限られ一般に利用しづらい報告書をインターネット上で公開することで、必要とする人が誰でも手軽に調査・研究や教育に利用できる環境の構築を目指しています。

【全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクト】

国立情報学研究所の最先端学術情報基盤（CSI）整備事業の委託を受けて、2008（平成20）年度～2012（平成

日本地図からさがす



<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja>

文化財保護行政と研究を結びつける拠点としての連携

5

課題・希望・展望

未来に向けてほしいこと・期待すること

行政と研究の「はざま」故の「不徹底」の徹底化

展観は「事業」として成り立つが・・・

人文・社会のデータインフラは「何を担うのか」

第2項 発掘調査の方法

基本的な発掘調査の方法は、従来の発掘調査と同様である。遺構検出にかかる前段階の掘削作業は主として重機を用いたが、調査地点の現況によっては人力作業により表土除去作業を行った調査もある。重機は0.25～0.7mのバックホーで各層位を確認して、層序毎に除去をした。

遺構検出以降の作業は、すべて人力により行った。遺構の確認・検出に係る作業までは、唐鍬や草鉋等の用具を用いて、遺構のプラン・重複関係を把握するための作業を行った。この時点にいたる経過の中で出土した遺物は、本節第1項で述べた基本グリッドをもとに、グリッドナンバーと出土層位・日付を記録した上で取り上げている。

遺構検出作業を経て把握された遺構は、その時点で周囲に展開する遺構との関係を検討した上で、掘立柱建物や土坑等の性格を判断し、遺構ナンバーを付した。

遺構の覆土の掘削は、遺構の長軸・短軸等の形状を考慮したうえで、半截もしくは十字の土層観察用のベルトを残して、掘り下げを行った。遺構の断ち割りには遺構の形状によっては、半

の字形や、千鳥形に土層を残したもの、更にはサブトレッチを採用したものもある。ただし、試掘調査や確認調査の時は、重複関係の確認や、基本断面形状の確認のために、断ち割りが必要と判断された場合に限り、必要最小限の範囲で断ち割りを行っている。

土層の堆積状況を記録した後は、残された部分の掘削を行い、遺構の完掘作業を行った。

遺構の覆土を掘削する過程の中で出土した遺物は、調査半次・日付・遺構ナンバー・層位を遺物カードに記して取り上げた。出土状況によっては出土状況写真や出土状況図を作成している。

調査終了後は、開発にかかる発掘調査の場合は、そのまま開発事業へ現地引渡し、試掘調査ならびに範囲確認調査の場合は、重機を用いて埋戻し作業を行い、調査前の状況に復している。



Fig.39 表土除去の例(第18次調査)



Fig.40 遺構掘り下げの例(第16次調査)

第3項 記録の作成

第3項 記録の作成

測量図の作成 測量図は、本節第1項で述べた建設者告示に基づく平面直角座標第Ⅱ系(日本測地系)に準じた基準点を用いて作成した。平面図は平板測量により作成し、各遺構詳細図はS=1/20を基本とし、適宜S=1/30・40・50の縮尺率を用いた。遺構配置図もしくは遺構全体図を作成した場合にはS=1/100の縮尺で作成した。遺構断面図は海拔標高に対応する水平基準線を設けてS=1/20の縮尺で作成した。

記録写真の作成 記録写真の作成は、35mm判リバーサルフィルム・同カラーネガフィルム・同モノクロネガフィルムを基本とし、デジタルカメラも使用した年次もある。調査区の全景撮影にはラジコンヘリコプター等を使用して空中写真撮影を行った。空中写真撮影には、35mm判とブローニー判のリバーサルフィルム・カラーネガフィルム・モノクロネガフィルムから取捨選択して行った。また、飛行時の撮影記録映像も作成している。

調査日誌 発掘調査の経過を記するために、一日の作業毎に調査日誌を作成した。調査日誌には遺構名・日付・天候・稼働作業員人数・作業内容・調査所見を記載している。



Fig.41 整理作業の様子

第4項 調査成果の公表・公開

遺構の状況が明らかになった時点で、適宜現地説明会を開催し、その成果の公表に努めている。

開催した現地説明会は第4次調査・第8次調査・第10次調査・第14次調査・第17次調査・第18次調査、第20・21次調査の7回である。

説明会にはその都度現地説明会資料を作成し、その時点の理解を解説し、一般に配布を行った。



Fig.42 現地説明会の様子

写っている人の
同意はとれているか？
とる必要があるのか？

調査経過等の写真は
しばしば報告書に付される。
・行政手続き書類としてはつけたい
・学術的には不要

福島県南相馬市教育委員会文化財課 2007

『南相馬市埋蔵文化財調査報告書6：泉廃寺跡』南相馬市教育委員会 より

<http://doi.org/10.24484/sitereports.70891>

地方自治体の文化財担当にとって、権利の処理は大きな負担になる

報告書に潜む「各種の権利」を整理し
適切なガイドラインを設定し
最終的なオープン公開を視野に入れた仕掛けを
各自治体にばらまくことが必要

これからの「報告書」のデジタル化・権利処理は適切に進めたとしても
遡及はどのようにするのか？

デジタルデータの作成と維持 = コストがかかる

基盤S：推論機能を有する木簡など出土文字資料の文字自動認識システムの開発2003–2007

基盤S：木簡など出土文字資料積読支援システムの高次化と総合的研究拠点データベースの構築2008–2012

基盤S：木簡など出土文字資料の資源化のための機能的情報集約と知の結集2013–2018

基盤A：歴史的文字に関する経験知の共有資源化と多元的分析のための人文・情報学融合研究2014–2018

基盤S：木簡等の研究資源オープンデータ化を通じた参加誘発型研究スキーム確立による知の展開
2018–2023

基盤A：平城宮・京跡出土木簡とその歴史環境のグローバル資源化2018–2022

これらは構築を中心とするもの
維持の費用は含まれていない

構築・維持の費用を
どのように確保するか

展観事業 = 収益がある

データインフラ維持 = 収益がない

大型の機関でも難しい・ましてや小さな自治体にはより難しい

行政と研究を結ぶために
文化財保護が研究と未来に直結するために
調査者の知見が国民共有の財産になるために
デジタル化のモチベーションを上げるために
多くの機関の連携による実りを高めるために

本事業を「出発点」として
大規模な展開があることを期待します